

2019年11月1日(金)～11月27日(水)

くみ ひも
11月の寄贈品コーナー「組紐～その伝統と創造～」
会期：11月1日(金)～11月27日(水)

組紐とは、糸を交差させて組んだ紐のことで、主に着物^{おびじめ}の帯締^{おびじめ}や羽織^{はおり}の紐に用いられました。正絹^{しょうけん}で組まれた製品は、庶民には手が届かない高級品でした。その組紐が昭和初期から平成の初め頃まで少なくとも半世紀以上にわたり、平塚市の須賀^{すか}（現・港地区）でつくられていました。戦前は須賀^{せいひも}に製紐工場があり、60名ほどの人が働いていました。戦後も5軒^{ひもや}の紐屋が製紐加工を続けていました。

これら須賀の紐屋の中から、岩崎家で使われていた綾竹台^{あやたけだい}と製品、今回新たにご寄贈いただいた柳田家の高台^{たかだい}を展示します。近年は工芸作品としての組紐も人気で、江戸流組紐の家元であり、平塚市内で組紐教室を開いていた藤田克氏の作品も展示します。組紐の伝統の技と美をお楽しみください。



綾竹台